

◆ 今週のコメント

- マラリアの報告が1例(男性, 10歳代)あり, 本年の累積報告数は2例となっています。推定感染地域は国外(マレーシア)で, 推定感染経路は蚊からの感染です。
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が, 1例(男性, 70歳代)あります。症状は発熱・咳嗽・呼吸困難・肺炎・多臓器不全です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は塵埃感染です。本年初めての報告となっています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。症状は発熱・嘔吐・その他(活気不良)です。本年の累積報告数は7例となっています。
- 麻しん(検査診断例)の報告が1例(女性, 20歳代)あり, 本年の累積報告数は2例となっています。推定感染地域は国内で, 遺伝子型は海外由来型のB3型です。
本年の全国の累積報告数はすでに206例あり, 全国で麻しん発症の報告(輸入麻しんとそれに連なる国内感染)が続いていますので, 注意が必要です。
麻しん排除に向けて, 感染拡大防止及び流行状況の把握を迅速に行うことが重要であることから, 医療機関におかれましては, 麻しんを診断された場合には速やかに所轄の保健センターに届出てください。また, 検体(咽頭ぬぐい液, 血液(EDTA血あるいはクエン酸血), 尿)の提供を依頼することがありますので, ご協力をお願い致します。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は13.84(941例)で, 第5週(1月27日～2月2日)をピークに減少しているものの, 依然として注意報レベルの「10」を上回るとともに, 過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性なし
【1月以降の累積報告数 67例(肺結核 33例, その他結核 12例, 潜在性結核感染者 22例)うち喀痰塗抹陽性 15例】
- 四類:マラリア 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- 五類:麻しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	13.84	941
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.20	213
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	33
	③ 突発性発しん	0.39	16
	④ 水痘	0.27	11
	⑤ RSウイルス感染症	0.10	4
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

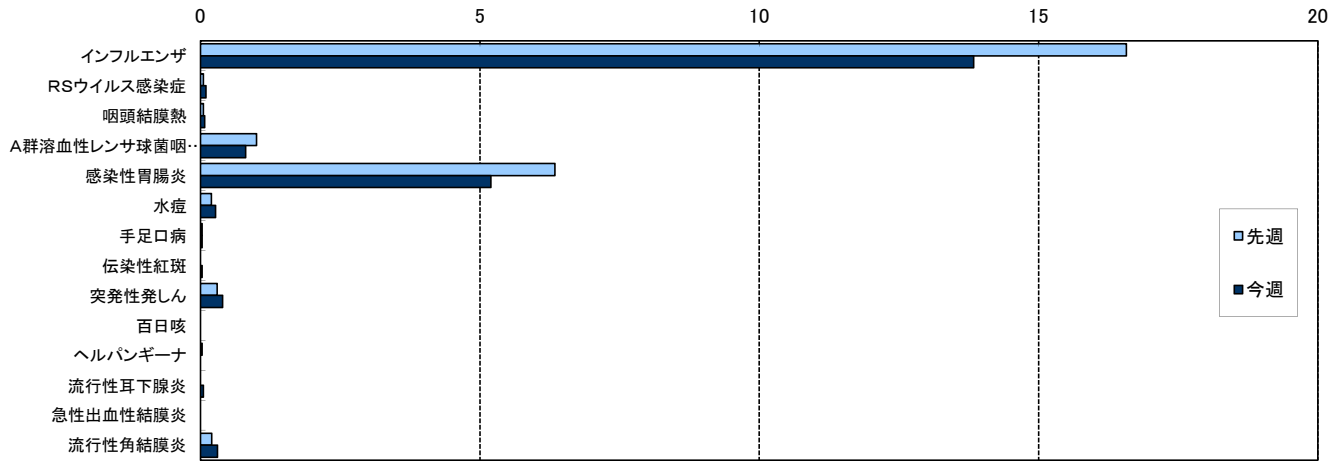
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成26年3月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

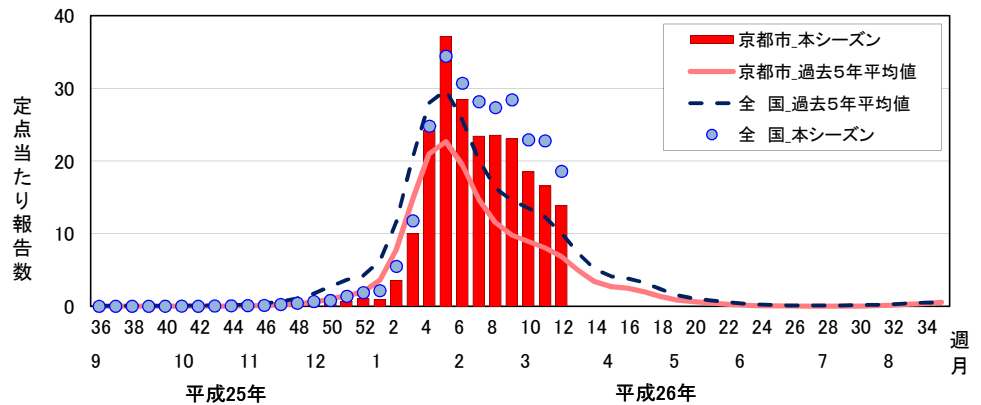
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第12週)と先週(第11週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第8週	1,603
第9週	1,568
第10週	1,259
第11週	1,127
第12週	941
累積報告数 (第36週以降)	15,410

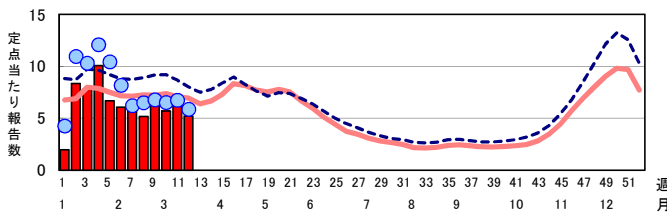


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

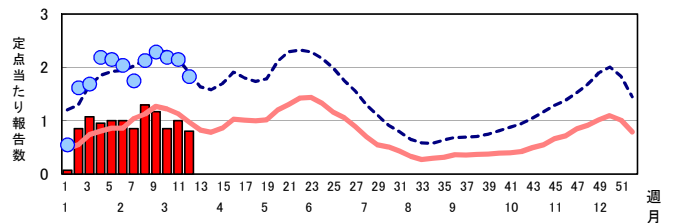
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

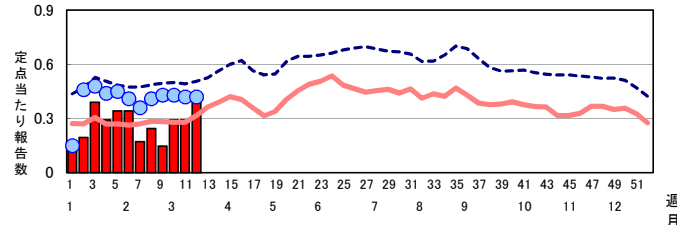
1 感染性胃腸炎



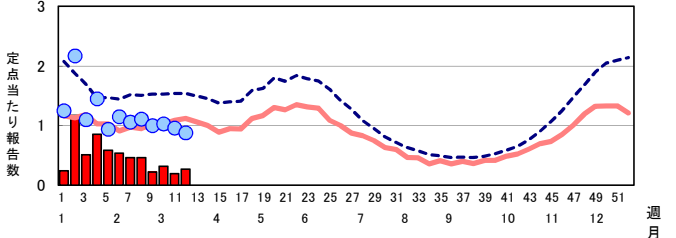
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 突発性発しん

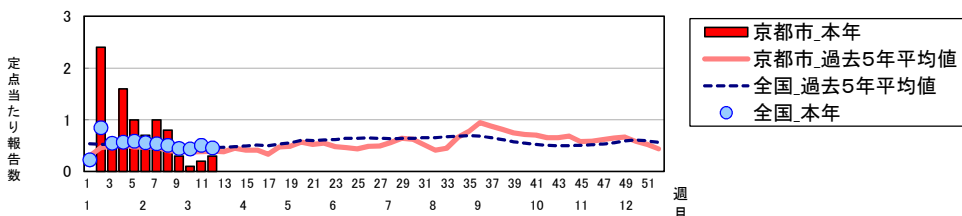


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



第12週(3月17日～3月23日)トピックス: <インフルエンザ>

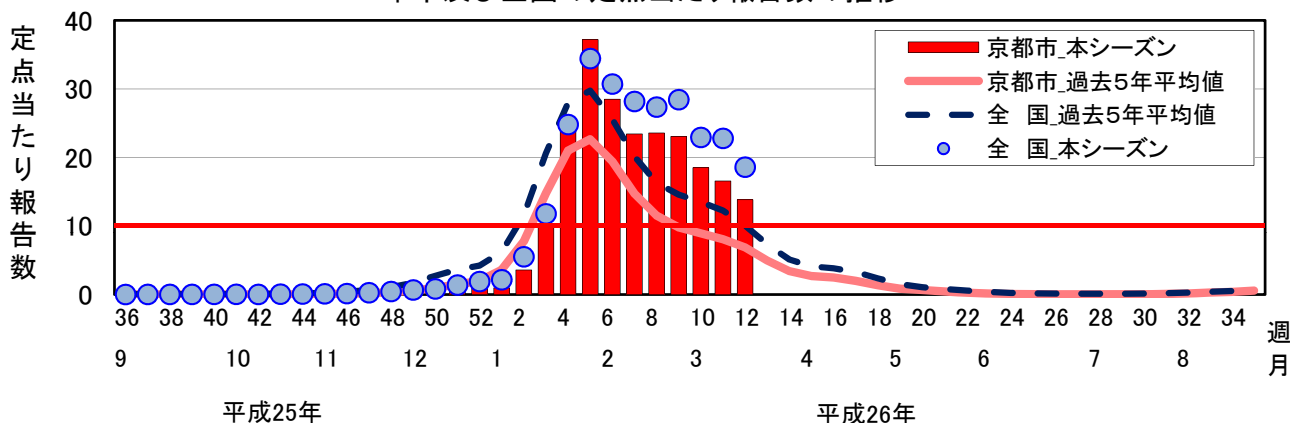
インフルエンザの定点当たり報告数は13.84(941例)で、第5週(1月27日～2月2日)をピークに減少しているものの、依然として注意報レベルの「10」を上回るとともに、過去5年平均値を大きく上回っています。また、京都市の過去10年間の定点当たり報告数ピークの週から「10」を下回った週までの期間をみると、2～9週間で推移しています。

行政区別では、全ての行政区で同時期の過去5年平均値を上回っており、北区及び下京区を除く9行政区で注意報レベルの「10」を上回っています。

京都市衛生環境研究所では、今シーズン(平成25年9月～)に、AH1pdm09が27例、AH3型が3例、B型が21例、分離・検出されています。

なお、全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告数は、AH1pdm09 2,480例(47.5%)、AH3型 1,286例(24.6%)、B型 1,461例(28.0%)となっています。(平成26年3月27日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移

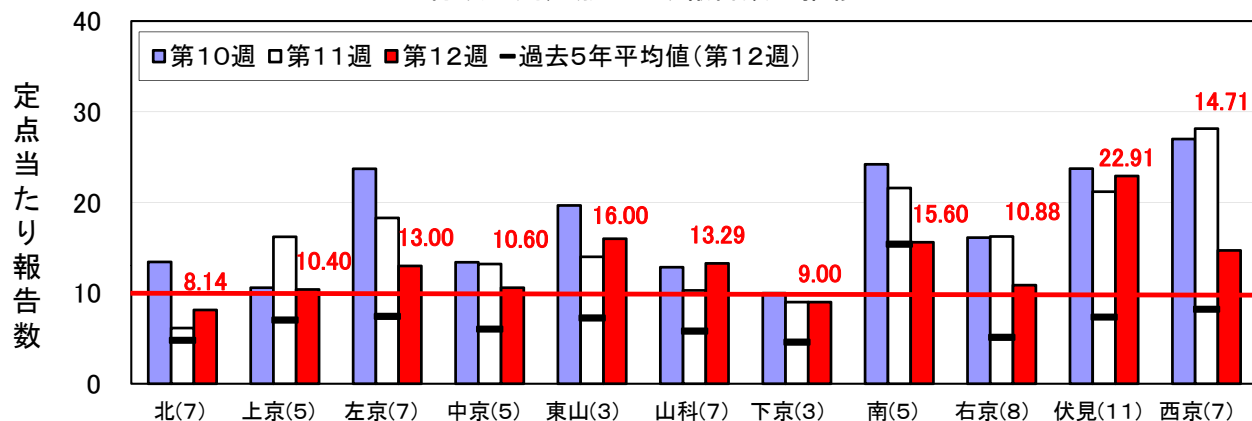


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

京都市の過去10年間の定点当たり報告数ピーク週から「10」を下回った週までの期間

シーズン	H15/H16	H16/H17	H17/H18	H18/H19	H19/H20	H20/H21	H21/H22	H22/H23	H23/H24	H24/H25	H25/H26
ピークの週	第6週	第9週	第4週	第9週	第5週	第4週	第44週	第4週	第5週	第5週	第5週
ピーク時の定点当たり報告数	30.90	39.15	19.91	18.41	9.68	27.51	31.35	20.73	38.89	31.22	37.19
「10」を下回った週	第9週	第12週	第6週	第13週		第13週	第1週	第7週	第13週	第11週	
ピーク時からの期間	3週間	3週間	2週間	4週間		9週間	9週間	3週間	8週間	6週間	

行政区別定点当たり報告数の推移



()内は行政区別のインフルエンザ定点医療機関数